

津消防タイムズ

第43号

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町 2276

編集 消防総務課
企画広報担当
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

協力 津市防火協会

火災などの
お問い合わせ
☎224-1881
救急医療情報案内
☎256-1199



↑フィナーレを飾った一斉放水

○消防団員など

約六百五十人が参加

平成二十二年一月十日、津リージョンプラザ（西丸之内）とその周辺で、消防出初式を開催しました。

この出初式は、新しい年の初めに、消防装備を確認するとともに、消防職員や消防団員等の士気高揚と市民の皆様に消防活動などへの理解と信頼を深めてもらうことなどを目的に開催しているものです。

出初式は、お城ホールでの式典から始まり、松田直久市長が式辞で「火災や水害などの災害から、市民を守るため昼夜を問わず活躍されていることに深く敬意を表します。消防人としての責務を再認識し、二十九万市民の負託に応えられるよう、更なる努力と精進をお願いします。」と感謝と激励の言葉を述べられました。

式辞の後、永年消防業務に精励した消防団員や消防職員に対し

て表彰が行われました。また、消防団員の家族や消防活動に理解と協力をいただいた団体に対して感謝状が贈られました。

式典の後、津リージョンプラザ南側で、津消防団今井徹副団長以下二十三人の木遣り組による木遣りの披露と消防音楽隊の演奏に乗せて、各消防署、市内全域の消防団による徒歩部隊、車両部隊などの分列行進が行われました。最後に、お城公園のお堀西側で、消防団の小型ポンプと消防署のはしご車から一斉放水が行われ出初式を締めくくりました。（駒田竜司）



一木遣りを披露する木遣り組



→消防車の分列行進

○貴重な文化遺産を

後世に残そう！

一月二十六日、高田本山専修寺（一身田町）で文化財防火デーに伴う訓練が、高田本山自衛消防隊、一身田地区自治会、一身田自主防災組織、津消防団北部方面隊の五分団、北消防署など総勢約百四十人が参加して実施されました。

訓練は、震度六の大地震で国指定文化財の御影堂が倒壊し、負傷者が出たほか、出火、延焼の恐れがあるという想定で始まりました。消防車が到着するまでの間には、水バケツリレーや消火器による初期消火訓練、敷地内に設置されている屋外消火栓や放水銃を使用した火災防



↑重要物品搬出訓練



↑消防車による一斉放水

訓練、重要物品搬出訓練などを実施しました。

消防車が到着すると、一斉に放水が始まり、最後にはしご車からも本堂に向け放水を行いました。歴史ある郷土の文化遺産を後世に残すため、地域住民、自衛消防隊、消防団、消防職員が一体となり、非常に士気が高く有意義な訓練となりました。（横山博）

○谷川土清邸で防火訓練

一月二十六日、谷川土清旧宅（八町）で、文化財防火訓練が実施されました。この訓練は、第五十六回文化財防火デーの一環として、津市教育委員会主催により、津市婦人防火推進委員、地元自主防災

会、津消防団新町分団、消防防災指導センター、中消防署西分署など総勢三十六人が参加して行われました。

訓練は、通報訓練、避難誘導訓練、初期消火訓練、防火講話などが雪まじりの小雨の降る中で実施されました。

参加した人たちは、「今日体験した訓練を生かして、今後も地域ぐるみで谷川土清旧宅を守っていききたい。」と白い息を吐きながら、一生懸命訓練に取り組んでいました。（高山博樹）



↑バケツリレーによる初期消火訓練の様子



○テロ対策合同訓練

を実施

十二月十四日、津伊倉津港岸壁（雲出鋼管町）において、津港保安委員会が主催するテロ対策合同訓練が実施されました。

この訓練は、津港における保安の向上と入国管理の強化を目的に、中消防署南分署のほか、第四管区海上保安部、津南警察署、名古屋入国管理局四日市港出張所など、官民十五機関が参加して行われました。

訓練は、入国管理局による臨検や海上保安部巡視艇によるテロリストとの銃撃戦訓練、津南警察署による爆発物処理訓練などが行われました。銃撃戦訓練では、中消防署南分署救急隊が消防隊や海上保安部の職員と協力し、船舶から負傷者を救出しました。

参加した消防職員は「慣れない船上での活動に悪戦苦闘したが、貴重な経験ができた。」と述べていま

した。(山路光治)



↑海上保安部職員と連携して負病者の救出にあたる

○鈴鹿市南消防署と

合同訓練を実施

北消防署河芸分署では、十二月十七日、岐阜マリンスポーツセンター(河芸町東千里)で鈴鹿市南消防署と「三重県内消防相互応援協定」に基づく合同訓練を実施しました。

今回は津市の境界付近で火災が発生し、管轄外の鈴鹿南消防署隊が応援出動するという想定で訓練が行われました。地理状況が分からない場所を明確に伝えるためにFAXや消防無線を県内共通の周波数に切替えるなどして情報を伝達・共有することが主体となる訓練でした。

坂井久義北消防署長は「非常に有意義な訓練でした。この訓練での課題を改善し、今後の現場活動に生かしていきたい。」と講評されました。その後、津・鈴鹿消防の職員同士が意見交換会を実施し、「今後も住民本位で協力体制の確立に努めていこう」と気持ちを新たにしました。(笹村晶紀)



↑放水を行う鈴鹿市南消防署の職員

○亀山市関消防署と

合同訓練を実施

一月十四日、津市と亀山市との「三重県内消防相互応援協定」に基づく合同訓練を鈴鹿カントリークラブ(芸濃町楠原)で実施しました。

今回実施された芸濃町楠原地区は、地形的に関消防署から二、

三分程のところに位置し、いざというときには関消防署の協力が必要不可欠です。このため、境界付近で発生した災害には、相互に救助し合う共助体制が進められています。

訓練実施後は、地域の方々から信頼される消防署であるために、今後も連携を図っていくことを確認しました。(岡南久治)



↑訓練終了後、講評を受ける亀山市関消防署職員と津市北消防署芸濃分署の職員

○自分たちの地域は

自分たちで守る

一月十七日、旭町児童遊園(桜橋三丁目)で、旭町自主防災会による防災訓練が実施されました。

防災倉庫に収納されている発電機や投光器の作動点検を実施したほか、中消防署の職員による心肺蘇生訓練や煙体験ハウスによる煙体験、また津消防団橋北分

団員による消火訓練や応急担架作成・搬送訓練、地震体験車や防災グッズの展示があり、多くの住民が訓練に参加しました。

参加者は、「心肺蘇生法や消火器の取扱いなど良い経験ができた。いざというときに役立てたい。」と話していました。(谷中毅)



↑煙体験を行う参加者

○香良洲町で

防火イベントを開催

二月七日、香良洲総合支所駐車場で、火災予防啓発の一環として、中消防署香良洲分遣所や香良洲消防団が防火イベントを開催しました。

火災が多く発生するこの時期に実施しており、消防職員による消火器の取扱い方やマジックショーを実施したほか、消防団員が餅をついて子供たちに振舞うなどし、火災予防を呼びかけました。



→初期消火訓練を行うイベント参加者



→マジックショーを行う香長洲分遣所職員

○園児が防火パレードで火災予防を呼びかけ

十二月十四日、のべの幼稚園（久居二ノ町）の園児で構成される、のべの幼稚園幼年消防隊による防火パレードが行われました。

約八十人の幼年消防隊員は、お揃いの法被姿で、久居二ノ町



↑元気に防火パレードを行うのべの幼稚園児

周辺を「♪戸締り用心、火の用心」と大きな声で歌いながら歩き、沿道の人達から、手を振ってもらったり、拍手をもらったりし、しっかりと火の用心を訴えていました。（田村公一）



○津市消防音楽隊がゆく!

消防音楽隊は十二月十九日、独立行政法人国立病院機構三重病院（大里窪田町）で「クリスマス

マスふれあいコンサート」を実施しました。

今年はいつものサンタクロースに加えてシロモチくんが登場し、「崖の上のポニョ」、「演歌メドレー」、「ジングルベル」などの曲に合わせて、入院患者さんと全員で「歌って!」、「笑って!」、「体を動かして!」と楽しい時間を過ごしてもらい、単調になりがちな療養生活に少しばかりか潤いを感じていただいたようでした。いつもは多くの患者さんで溢れている病院の外來ホールが、クリスマスムード一色になりました。（横山博）



→演奏を行う音楽隊



←応援に駆け付けたサンタとトナカイとシロモチくん

○耐震性防火水槽を設置

東海・東南海・南海地震等の大規模地震発生時において、迅

速で効果的な消防活動を行うため、平成二十一年度国庫補助事業により、六十トン級の耐震性防火水槽を、ヒルズガーデン西公園（戸木町）、三四公園（野田）、小山台地公園（一志町小山）にそれぞれ設置しました。

このうち、三四公園では、一月十七日に、中消防署西分署、津消防団神戸分団、地元自治会など三十三人が参加し、合同訓練を実施しました。（小坂健介）



↑耐震性防火水槽より吸放水訓練を行う消防職員と消防団員



**○救助隊員を目指して
若手職員が体力測定に挑戦**

二月八、九日、久居消防署で第三十九回消防救助技術東海地区指導会（平成二十二年八月三日に三重県消防学校で開催予定）に出場する指導会隊員の選抜体力測定を実施しました。

これは、救助隊員育成研修の一環として、平成二十一年度から実施しているもので、津市消防の救助隊員を目指す若手職員十五人が参加し、日ごろの体力錬成及び精神鍛錬の成果を發揮しました。

測定種目は、自力でロープ（十五メートル）を登るものや、持久走（千五百メートル）をはじめとする計五種目で、いずれの隊員も過酷な災害現場において、「強い



→十五メートルのロープ自力登はん



←限界までの腕立て伏せ



←一分間の上半身おし



→千五百メートル持久走

精神力と強固な体力」で立ち向かう救助隊員を目指していることから、高い水準で測定を終えました。

この中から「障害突破」訓練、「引揚救助」訓練の二種目計十人の隊員が選抜され、四月からそれぞれ指導会本番に向けた訓練を実施していきます。この測定会（救助隊員育成研修）に参加したすべての若手職員は、今後も「市民の安心・安全を先頭に立って守る」という目標に向かって日々の鍛錬を継続していきます。（平子泰史）



○予防査察業務研修を開催

第一回予防査察業務（立入検査）研修を一月十五日に消防本部三階研修室で開催しました。

この研修は、日ごろの予防査察業務で必要となる立入検査でのスキルアップを図ることを目的としており、法令の解説や消防用設備等の基準や機能を学ぶ内容となっております。

第一回の研修では、「防火管理・防災管理」についての研修を実施しました。当日は、各消防署のベテランから若手まで多くの職員が集まり、予防課職員の講習を熱心に聴いていました。（笠井敦史）



↑真剣に講義を聴く予防研修参加者

○高速道路における災害の意見交換会を開催

一月二十二日、芸濃総合支所において昨年、伊勢自動車道で発生

した大型トラックの車両火災について意見交換会を開催しました。

意見交換会には、現場活動を行った三重県警察本部交通部高速道路交通警察隊、中日本高速道路株式会社津保全・サービスセンターも参加し、非常に危険な環境である高速道路での活動についての注意点や、三機関が連携して被害を最小限に抑止し、短時間で活動できるための情報交換を行いました。

今後、消防が活動するにあたって大変参考になるアドバースもあり、関係機関が一つにまとまった有意義な意見交換会となりました。（加藤修治）



↑意見交換を行う参加者

○初期消火で感謝状

二月三日、白山消防署で、美杉町で発生した建物火災で初期消火に成功し、被害を最小限に食い止めた庄賀久さん（美杉町在住）に対して、長谷川雄一署長から感謝状の贈呈が行われました。

庄さんは、昨年十二月十三日午前九時ごろ、隣家の窓から煙が出ているのに気付き、すぐに駆け付け、毛布を池の水に含ませると燃え上がるストーブにかぶせて、初期消火に成功しました。

百貨店に勤務していたことのある庄さんは、年に数回防火訓練を実施していたこともあり、「訓練が役に立ちました。」と述べていました。（高橋直通）



↑白山消防署で行われた感謝状贈呈式

○連携プレーで女性救出

二月十日、北消防署は、白塚町で発生した建物火災で老人女性を救出し、火を消し止めた三人に感謝状を贈りました。感謝状を受けたのは森下勇さん（白塚町在住）、妻のすゑ子さんと、長男の薫さんの一家三人。

一月二十三日の朝、すゑ子さんがごみを出すため外に出ると、隣の家から炎が見えたため自宅に戻り、勇さんが一九番通報、薫さんが女性を抱えて救出しました。その後鍋に水を入れてリレーし、火を消し止めたものです。贈呈式で勇さんは「消火することを一番に考えて行動した。ぼやで済んでよかった。」と述べていました。（高橋直通）



↑感謝状を受け取った森下勇さんと妻のすゑ子さん

○津市消防本部の組織、各消防署の管轄が変わります。

災害の多様化に的確に対応し、質の高い確実な業務運用を行うため、平成二十二年四月一日から、消防本部の組織の変更を行います。また各消防署の管轄する地域も変わります。

消 防 本 部	消防総務課	総務担当・消防団担当・経理担当
	企画調整室	企画調整担当 津市消防防災指導センター
	予防課	予防担当・危険物担当・設備指導担当
	消防課	消防担当・救助担当
	救急対策室	救急救命担当
消 防 署	通信指令課	情報管理担当・通信指令担当
	津市中消防署 西分署 安濃分遣所	庶務予防担当・消防担当
	津市北消防署 河芸分署 芸濃分署	庶務予防担当・消防担当
	津市久居消防署 南分署 榊原分遣所 美里分遣所 香良洲分遣所	庶務予防担当・消防担当
	津市白山消防署 一志分署 美杉分署	庶務予防担当・消防担当

21年中の災害件数の概況

○火災

平成二十一年中に発生した建物火災は五十五件で、そのうち住宅火災は三十五件でした。火災による死者は、住宅火災で三人、車両火災で二人、その他の火災では一人でした。建物火災における主な火災原因は、「こんろ」が十二件、次いで「放火・放火の疑い」の七件でした。



火災区分		平成21年	平成20年	増減
出火件数		109	126	▲ 17
火災種別(件)	建物	55	65	▲ 10
	林野	10	5	5
	車両	12	15	▲ 3
	船舶	0	0	0
	その他	32	41	▲ 9
死者(人)		6	6	0
負傷者(人)		13	11	2

○救急

平成二十一年中の救急出場件数は一万一、五七二件で、前年に比べ二八三件の増加となり、過去最高の出場件数となりました。前年と比較し、急病、一般負傷の出場件数の増加が見られます。事故種別でみると、急病が六、九九七件で最も多く、次いで一般負傷の一、七四四件となっています。また、搬送人員は一万、九二五人で前年に比べ一七七人の増加となりました。



救急区分		平成21年	平成20年	増減
出場件数		11,572	11,289	283
搬送件数		10,693	10,524	169
不搬送件数		879	765	114
搬送人員		10,925	10,748	177
事故種別(件)	火災	15	19	▲ 4
	自然災害	1	0	1
	水難	9	11	▲ 2
	交通	1,357	1,344	13
	労働災害	99	114	▲ 15
	運動競技	52	72	▲ 20
	一般負傷	1,744	1,664	80
	加害	81	74	7
	自損行為	171	137	34
	急病	6,997	6,905	92
	その他	1,046	949	97

○救助

平成二十一年中の救助出動件数は一五七件で、前年に比べ十八件の増加となりました。事故種別でみると、最も多いのが交通事故の九八件で全体の六二・四パーセントを占めています。また、救助人員は八十一人でした。



救助区分		平成21年	平成20年	増減
出動件数		157	139	18
活動件数		81	87	▲ 6
救助人員		81	82	▲ 1
事故種別(件)	火災	3	9	▲ 6
	交通事故	98	79	19
	水難事故	8	10	▲ 2
	風水害等自然事故	4	0	4
	機械による事故	3	4	▲ 1
	建物等による事故	10	8	2
	ガス及び酸欠事故	4	1	3
	破裂事故	0	0	0
その他の事故	27	28	▲ 1	

○熱い思いを伝える

二月二十三日、消防職員の意見発表会を実施しました。各消防署から選出された十二人の消防士は、目標とする消防士像や日ごろの経験から命を救うためにはどうすればいいのかなど様々な熱い思いを発表しました。

最優秀賞を受賞したのは、中消防署南分署の久保田芳史消防士で「命を守るためにできること」をテーマに住宅用火災警報器の重要性を訴えました。久保田消防士は四月九日に熊野市で開催される三重県大会に出場します。その他の受賞者は以下のとおりです。

- ▼優秀賞 椿麻衣（久居消防署）
- ▼努力賞 山岡卓巳消防士（北消防署河芸分署） 山本文章（久居消防署一志分署）



↑最優秀賞を受賞した久保田消防士

新規車両紹介



→北消防署に配置された指揮車



←中消防署に配置された資機材搬送車



↑中消防署に配置された泡圧縮吐出装置積載車

カメラアングル



→一月十五日、非常招集訓練及び災害対策本部設置訓練



←二月二日に久居地内で発生した建物火災

☆ 主な行事予定 ☆

- ◆三月二十六日（金）河芸分署移転内覧会（河芸分署）
- ◆四月九日（金）消防職員意見発表会三重県大会（三重県熊野市）
- ◆四月十六日（金）消防職員意見発表会東海大会（愛知県常滑市）
- ◆五月二十一日（金）消防職員意見発表会（千葉県千葉市）

☆ 音楽隊派遣演奏予定 ☆

- ◆三月十四日（日）・三重県消防大会（三重県総合文化センター）

ご家庭に住宅火災警報器を設置しましょう！
消防法の一部改正及び火災予防条例の改正により、平成20年6月から住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。



～平成22年2月までの災害～

火災	16件（6件）
救急	1148件（1041件）
救助	13件（13件）

（ ）内は前年同期

○編集後記

昨年一月十五日に、乗客百十五人を乗せ、ニューヨークを離陸した旅客機は、エンジンが停止するとうトラブルにみまわれ、ハドソン川に緊急不時着しました。このとき、一人も犠牲者を出さなかったことから「ハドソン川の奇跡」と呼ばれ、そのときの機長チェズレイ・サレンバールは英雄として賞賛されました。のちにチェズレイ機長は「訓練してきたことをやっただけ。」とさりげなく言っていました。一生に一度あるかないかのことに備え、一生懸命訓練した結果であろう。大地震や火災は同じく、一生に一度遭遇するかどうかの災害です。そのときに冷静に判断し動けるかは、いかに普段から訓練ができていくかどうかではないでしょうか。避難訓練や消火器の取扱いをもう一度確認してみたいかがでしょうか。（高橋直通）